

マーケットトピックス (6月19日)

■前日の流れ

東京市場では、週明けで新規材料に乏しい中、大阪北部で起きた地震の影響や、米中の貿易問題の行方を見極めたいとの思惑もあり、ドル円・クロス円は軟調な動きとなった。また、日経平均株価が下げ幅を拡大する動きとなったことや、最大震度6弱の地震が発生したことで、投資家心理が冷やされた面もある。ただ、午後には米長期金利が上昇に転じたことからドルは堅調な動きとなった。海外市場では、米中貿易摩擦への懸念が引き続き材料視され、相対的に安全な通貨とされる円を買う動きが先行した。また、欧米の株価が下落したことも影響し、ドル円・クロス円は軟調な動きとなった。その後は、米長期金利の上昇や、米株価が下げ幅を縮小する動きとなったことを受けて、ドル円・クロス円は底固い動きとなった。



①中国、香港、台湾が端午節で休場だったことから、アジア時間はやや薄商いとなり、序盤から小動きの展開となった。そして、近畿地方で強い地震が発生したとの報道を受けて、ドル円・クロス円は軟調な動きとなった。そして、米中貿易摩擦に対する懸念が強まっており、日経平均株価が下げ幅を拡大する動きとなった。

②大阪府北部で起きた地震の影響や、米中の貿易問題の行方を見極めたいとの思惑からやや小動きの展開となったが、米長期金利の上昇などもあり、ドル買い・円売りが優勢となった。

③海外市場で改めて米中貿易摩擦への懸念からドル円・クロス円は上値の重い動きとなった。また、日経平均株価の下落が影響し、欧米の主要株価が下落したことも影響し、ドル円・クロス円は軟調な動きとなった。一方、ドイツの保護主義的な貿易や移民政策を巡る政治的な対立への懸念を背景に、ユーロが軟調な動きとなった。

④米長期金利の上昇や、下落した米株価が下げ幅を縮小する動きとなったことも影響し、ドル円・クロス円は堅調な動きとなった。ただ、アトランタ連銀総裁は今年通年の利上げ回数について、なお3回を選択好しているとしたことがドルの上値を抑える要因となった。

■本日のポイント

米欧英関連の報道に敏感に反応する可能性が考えられる。先週のECB理事会後に大きく下落したユーロが週明けから底固い動きとなっており、値を戻す動きも期待されていた。しかし、ドイツの保護主義的な貿易や移民政策を巡る政治的な対立への懸念が圧迫要因となっており、関連する報道に注目したい。一方、英上院がEU離脱に関する重要法案を否決し、明日にも予定されている下院での採決が離脱交渉の結果を左右する可能性があることから、英国のEU離脱に関連する報道などにも敏感に反応する可能性もあり、注目したい。そして、米中貿易摩擦に対する懸念にも敏感であり、朝方トランプ米大統領の発言を受けて米中貿易競争への懸念が高まり、ドル売りとなる場面もあったことから、引き続き注意が必要だろう。また、米国の住宅関連の経済指標の発表が予定されているが、昨日の住宅関連の経済指標が予想外の低下となったことから、こちらの結果にも注目したい。

時間	国・地域	経済指標・イベント	予想	前回
21:30	米国	5月住宅着工件数	131.2万件	128.7万件

前回は、市場予想を下回る結果となり、一戸建ては微増だったが、集合住宅の落ち込みが影響した。ただ、依然として高水準を維持する結果となった。今回は、130万件台への改善が予想されており、好調な住宅市場が続くと予想されている。

時間	国・地域	経済指標・イベント	予想	前回
21:30	米国	5月建設許可件数	131.2万件	135.2万件

前回は、市場予想を上回る結果となったが、3月からはやや低下した。ただ、一戸建て住宅は7年ぶりの大幅マイナスとなった。今回は、前回の反動からやや低下が予想されている。特に、一戸建て住宅が改善しているのか注目したい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡、または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断は、お客様ご自身でお願いします。